
テルミドールSS ~ 放課後のラブレター ~

アクバル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

テルミドールSS〜放課後のラブレター〜

【Nコード】

N8429H

【作者名】

アクバル

【あらすじ】

どうも。アクバルです。今回は、作者兼テルミドール主役の僕を高校生にしてみました。

夕焼けが広がる頃。
放課後の体育館裏。

「アクバル先輩っ」

僕の前には一人の女の子がいた。金色の長い髪は胸元にまでかかっている。パツチリとした目。

ちよつと俯き顔の彼女。

「先輩……、わたし」

後輩のリリだった。セーラー服を身に纏った彼女は部活の姿とはまた違った趣を呈している。

「わたし……」

「どうしたんだい？」

できるだけ優しく声をかける。

今の僕は優しくて頼りがいがあるイケメンで頭がいい、しかも運動神経抜群のモテモテ先輩モードだ。

「その……」

校内美少女ランキングで堂々の1位の彼女がもじもじしているのは何だかとてもかわいいな。

ちなみに僕アクバルは校内イケメンランキング、堂々のランク外だ。数字ではきつと評価できないんだ。たぶん。イケメンすぎて、投票するのが躊躇われたんだ、きつと。

そして、

「これっ、」

と言って彼女が手渡してきたのは可愛らしいピンクの封筒。

ま、まさか……。

彼女いない歴〓産声から今この瞬間までの僕に、ブレイクスルーが訪れようとしているのか……っ。

神様は僕にお恵みをくださるといふのかっ？

「リリちゃん、これは……」一応確認してみる。

しかしもうわかりきっていたことだった。

リリは僕にホの字だ。

間違いない。

すると、恥ずかしそうに彼女がうつむいた。顔が真っ赤だ。

……間違いない。

コーラを飲むとゲップが出るくらい間違いない。

これから、僕の青春がはじまるのだっ。

「それ、」

彼女が口を開く。

よし、良いぞ。

どんな告白でも受け止めよう、マイハニー。

僕たちはきつと前世から結ばれていたんだ。そう。運命なのだ。

そして、リリは僕アクバルに言った。

「それ、ルカ先輩に渡してくださいっ！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8429h/>

テルミドールSS ~放課後のラブレター~

2010年12月18日15時12分発行